

<株式会社エフエム東京 第391回放送番組審議会>

1. 開催年月日:平成 24 年9月 4 日(火)
2. 開催場所 :エフエム東京 本社 10 階 大会議室
3. 委員の出席:委員総数 7 名(社外 7 名 社内 0 名)

◇出席委員(6名)

| | |
|-------------|----------------|
| 青 池 慎 一 委員長 | 横 森 美 奈 子 副委員長 |
| 渡 辺 貞 夫 委員 | 内 館 牧 子 委員 |
| 香 山 リカ 委員 | 西 田 善 太 委員 |

◇欠席委員(1名)

秋 元 康 委員

◇社側出席者(10名)

富木田 代表取締役社長
唐 島 専務取締役
黒 坂 常務取締役 編成制作局長
石 井 常務取締役
平 取締役営業局長
藤 取締役マルチメディア放送事業本部長
長 澤 常勤監査役
延 江 編成制作局ゼネラルプロデューサー
森 田 編成制作局局次長 兼 編成制作部長
平 岡 編成制作局 編成制作部プロデューサー(オブザーバー)

◇社側欠席者(0名)

【事務担当 森田放送番組審議会事務局長】

4. 議題: 番組試聴 (約 18 分)

『Blue Ocean』・『シンクロのシティ』

2012 年 9 月 3 日(月) 8:30~11:00 内 16:00~18:45 内

《議事内容》

議題1:最近の活動について

◎シンクロのシティ 番組発企画

「23区対抗・東京区民ピック」に多数の投稿

「東京の街とシンクロする」をコンセプトに、東京に生きる市井の人々の声を街頭インタビューで収集し、届けているワイド番組「シンクロのシティ」(月曜～木曜まで夕方4時～)の夏のスペシャル企画としまして、「今住んでいる、以前住んでいた、仕事で通っている」等、馴染みがあり、推奨出来る「区の自慢」を募集し、最も投稿数が多かった区を優勝とする「23区対抗!東京区民ピック」を実施いたしました。

東京区民ピック
23区対抗!レコメンドVOICEマップ

8/23 18:00更新

twitterで参加

| | | | | | | |
|-----|-----|------|-----|------|-----|-----|
| 葛飾区 | 杉並区 | 世田谷区 | 大田区 | 目黒区 | 東山区 | 中野区 |
| 豊島区 | 渋谷区 | 目黒区 | 文京区 | 千代田区 | 港区 | |
| 墨田区 | 足立区 | 荒川区 | 台東区 | 豊島区 | 豊島区 | |
| 江東区 | 江東区 | | | | | |

メールフォームから送る facebookに書き込む

8月16日(木)～23日(木)の開催期間中、番組オリジナル iPhone アプリ、facebook、twitter、メールを通じて地元愛に満ちた、温かいメッセージが寄せられ、投稿数は全部で23,275件に上りました。世田谷区と北区のトップ争いの末、世田谷区が1位となりました。来る9月6日(木)には、世田谷区長・保坂展人(ほさかのぶと)氏を番組にお招きし、賞状をお渡しする予定です。当日は毎日新聞、東京新聞の取材も決定しています。

◎ SCHOOL OF LOCK!で宇宙からの授業「星出 LOCKS!」

平日夜10時から放送の「SCHOOL OF LOCK!」では、ISS(国際宇宙ステーション)に長期滞在中の宇宙飛行士、星出彰彦(ほしであきひこ)氏を出演者に迎え、リスナーからの質問やメッセージに答えていく「特別授業」をスタートしました。

8月23日(木)に第1回を放送し、以降、星出氏が地球に帰還する11月12日までの間、毎週番組にご登場いただく予定です。

本企画が実現したのは、星出氏のISS滞在中のメンタルケアのため、星出氏の好きなTOKYO FMのラジオ番組を幾つか送信して欲しいという、JAXAからのオファーがきっかけでした。

これをきっかけとし、SCHOOL OF LOCK!の10代のリスナーへ、宇宙からメッセージを届けてほしい、というこちらからの要望に特別に応えて頂き、実現しました。

今後も、リスナーから宇宙に関する疑問や将来の夢などに、「星出先生」が答える形で、自らISS内で収録して頂いたメッセージを届けてまいります。

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側説明)

■補足になるが、シンクロのシティ「区民ピック」のような地域に根差した企画を、朝から夕方までの平日ワイドで意識するようにやっている。聴取率調査は、東京駅を中心に半径35kmにお住まいの方を対象としているので、埼玉や神奈川、千葉も入っているが、東京の放送局なのだから、まずは東京23区に支持されることが大前提だと思っている。

○埼玉、神奈川、千葉の方も通勤通学という意味では、23区にいらしている可能性が高い。

■「思いやりとやさしさ」を重要なキーワードとしているのは、社会環境がこれまで以上に厳しさを増しているので、より意識している。

○今の日本の方々の求める価値がそうなっている。

議題2: 番組試聴 (約 20 分)

【番組名】 PROTECT MYSELF～自助と共助の大切さを考える～

①『Blue Ocean』

パーソナリティ:住吉美紀 ゲスト:細川護熙氏

②『シンクロのシティ』

パーソナリティ:堀内貴之

【放送日時】 2012年 9月3日(月) 8:30～11:00、16:00～18:45

【番組概要】

防災月間の9月、昨日3日の月曜は、TOKYO FMでは、『PROTECT MYSELF～自助(事前に取り組む自らの備え)と共助(発災後、みんなで助け合って避難する)の大切さを考える～』と題し、防災・減災について、1日のワイドを縦断して、様々な角度から考えていく特集を組みました。

クロノスでは、社会心理学(災害情報・環境情報の社会心理)専門、東洋大学准教授関谷直也さんを迎え、生活者目線から、「大災害に備えてどのように防災対策・心構えをしておくべきか」という視点から、備えるべき防災グッズ、都市部での大地震、そのときとるべき行動、災害時のソーシャルメディアの活用、帰宅難民にならないための心構えについて放送。南海トラフの被害想定発表の意図についての解説も行いました。

Blue Oceanでは、財団法人「瓦礫を活かす森の長城プロジェクト」理事長で、元総理の細川護熙さんを迎え、大局的な視点から、日本をあげての復興プロジェクトを語っていただきました。これは、「瓦礫」といっても、元来各家庭で日常で使われていた生活用品であり、それぞれ大切な思い出の品。これを単に焼却処理するのではなく、未来の人が津波被害を受けないように、防潮堤の礎として有効活用できないのか、堤防の上に木を植えて森を作れば、やがて防潮林となって津波から身を守ることができる、というものです。当社および JFN 全局はこのプロジェクトに賛同し、この活動を国民運動にすべく、完全なメディアパートナーとして取り組むことにしております。

※10月からは「森の長城～Heart Green～」と題して、週1回25分のレギュラー番組をスタートします。

シナプスでは、「南海トラフ、首都直下地震の被害想定を策定委員に聴く」として、都の防災構想策定委員で、明治大学大学院特任教授中林一樹さんと、クイズ形式でリスナーに防災の知識と知恵を紹介。『自助』と『共助』、それを支援する行政の『公助』の意義、さらに、「休日は近所のバーベキューをやろう。それは実は『炊きだし』の予行演習になる」というな、身近な話題も織り交ぜて紹介しました。

また、夕方ワイドのシンクロのシティでは、南海トラフ地震の被害想定で東京での浸水域とされた江戸川区・江東区・中央区・港区・品川区・大田区の住民の声を取材。個人として、街として、どのような取り組みをしているか聴きました。また、災害危機管理アドバイザー、和田隆昌さんに「今日からできる防災準備」として、個人レベルで防災準備についての具体的なアドバイスをいただきました。

本日お聴きいただくのは、この中の一部、「Blue Ocean」と「シンクロのシティ」です。

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見 / 「■」社側説明)

○特に驚くべきポイントがなかった。「シンクロのシティ」は、災害に備えているという話なのか、備えていないという話なのか前提がわかりづらかった。また、ゲストの「やはり」の連発が気になった。ラジオは声としゃべり方がすべてを支配するので、ゲストであっても聞きやすい放送のためには、その要素が重要だ。住吉さんのしゃべりは進行に徹しすぎている印象があった。

○震災の記憶を風化させないために、定期的にこういったテーマに取り組むことは必要だと思う。「シンクロのシティ」の生活者の素朴な声良かった。前半の立派な取り組みの紹介よりも、後半の生活者の防災の取り組みの話には、リアリティがある。「森の長城プロジェクト」はこれからレギュラー番組が始まるということだが、わかる人にはわかるという内容ではいけないと思う。

○番組自体がどうという以前に、インタビュアーの「とか」が多いのが耳障りだった。住吉さんのコメントはありきたりで、何も残らなかった。街頭で女性が語ったインタビュアーの方が、訴えるものがあった。もう少し自分の言葉で語ってほしい。「森の長城プロジェクト」については、被災地で、地元の人と話したときに、がれきを封じ込めて、他に持っていけないためという意味でとらえられていた。そんな意図があつてのこととは思わないが、国家プロジェクトとして伝えるためには、きちんとした形での説明が必要だ。

○「防災」というテーマに対して、パーソナリティの堀内さんの語り口や BGM が軽かった。大切なテーマなのに軽々しくやっているという印象を受けた。トークの後ろに常に BGM があり、何でもエンタテインメントに作ってしまうのはなぜか。音楽なら音楽、エンタテインメントとはエンタテインメント、まじめな話はまじめな話としていても良いのでは。全部の作り方が、消費者に媚びている感じがある。

○ちゃんとしたことを取り上げているし、可もなく不可もない。番組の質の部分に対して

意見をして貢献したいが、今回については、取り組みの報告という色彩が強く、どうお答えしていいかわからない。

○それぞれのテーマは非常に重要である。その中での取り上げ方がどうか、朝から夜まで1日かけて取り組んだことに対して、試聴時間が短すぎるというのが正直なところだ。防災月間、防災の日にあたり、このテーマは同じことでも、手を変え品を変え、繰り返し放送していくことも使命。その意味ではとても良い取り組みだと思うが、それが良い番組として成立したかというのは短くて判断しかねる。

「森の長城プロジェクト」も、メディアパートナーとしてどのように取り扱っていくかが、重要。単にプロジェクトのPRをするだけでは、聴取者の方から批判を受けるのではないか。ジャーナリスティックな視点も必要であろう。

■トーク全部にBGMがひかれていて、予定調和な部分はある。BGMに頼っているとトークの完成度や間の取り方が疎かにされがちなので、そういったスタイルから脱却し、当たり前の音声メディアとしての演出に取り組んでいきたい。